

# つくば国際戦略総合特区

## Tsukuba International Strategic Zone



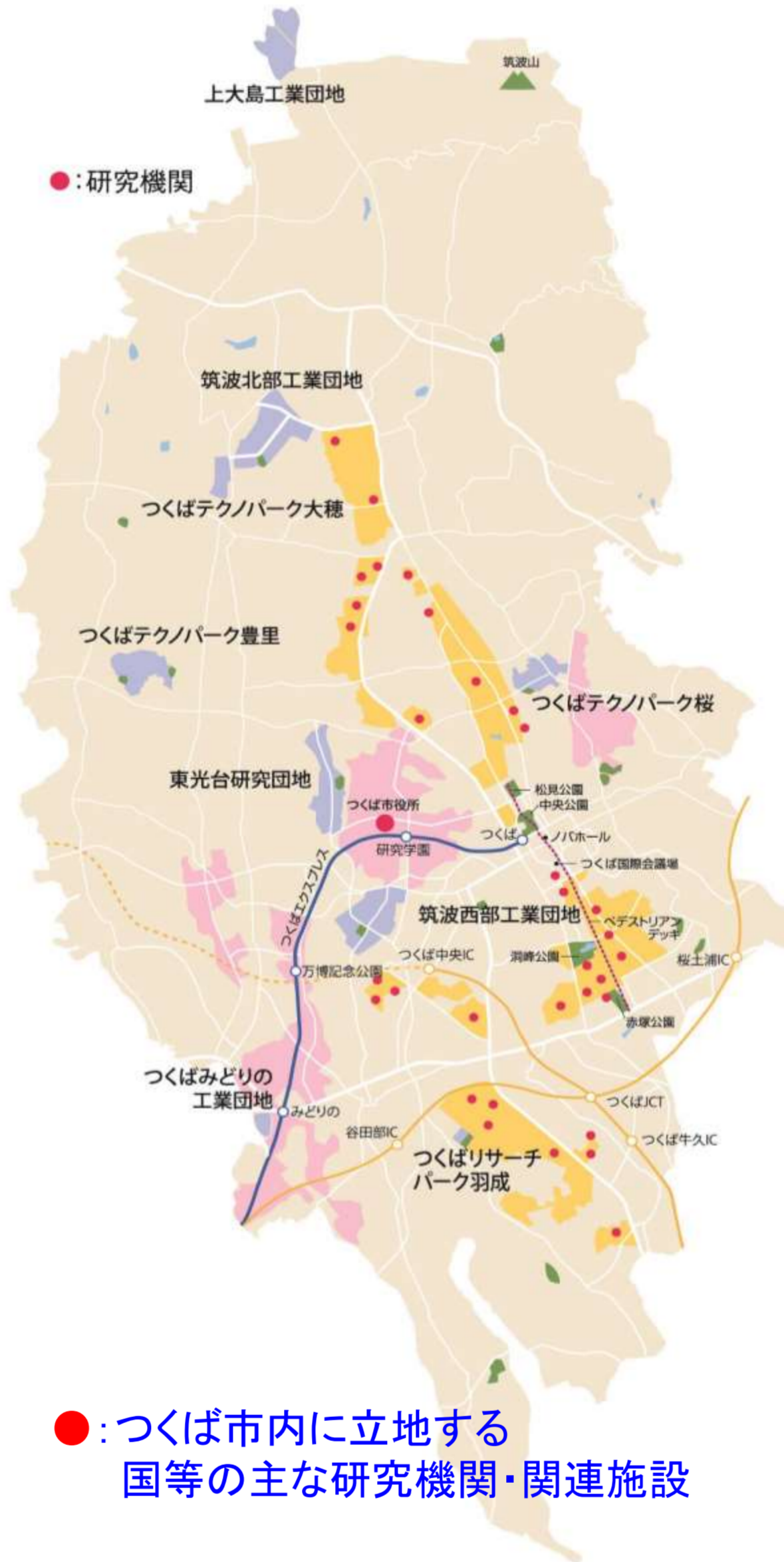
筑波研究学園都市中心部の風景

つくば市と茨城県内の一部の地域は、平成23年12月に内閣総理大臣によって「総合特別区域」に指定されました。現在、この「つくば国際戦略総合特区」では、先進的な7つ<sup>(※)</sup>の研究開発プロジェクトの推進をはじめ、世界を視野に入れた新しい産業の創出を目指す取り組みが進められています。 (※)平成26年8月現在

### 国内最大の科学技術都市・つくば

東京の北東約50kmに位置する街、茨城県つくば市。市の北部には、古くから日本人に愛されてきた名峰・筑波山がそびえ、豊かな自然を有する一方、市の中心部には多数の研究機関が集積する「筑波研究学園都市」と呼ばれるエリアが整備されています。

「筑波研究学園都市」の建設は、東京の過密解消、科学技術の振興、高等教育の充実を目的とした国による一大プロジェクトでした。1963年にその建設が閣議了解されて以来、国等の研究・教育機関の東京からの移転に伴う商業施設や住宅の整備、また民間企業の進出が進められてきました。現在、日本国内の国立等の研究・教育機関の約30%にあたる32機関をはじめ、民間企業の研究開発機関が多数立地しており、つくばは日本最大の科学技術都市としてその名を知られています。



### 科学技術の集積からイノベーションを生み出すために

つくばには、多くの研究機関や大学等が立地しており、膨大な研究開発実績はもとより、高度な技術・人材・設備等が多数集積しています。新たな産業を生み出すには絶好の要素が揃った地域であるといえます。しかし、研究開発の産業化は、一つの研究機関が単独で実現するのは難しいケースが多いのが現実です。多くの場合、研究機関と企業等が連携・協力し、産業化に必要な条件を整える必要があります。また、異なる研究機関や大学・企業等が連携し、それぞれの強みを発揮することで、研究開発の完成度が高まるケースも少なくありません。このため、つくばでは、異なる機関どうしの連携・協力を促進するための環境整備を進めています。産学官連携の要となる組織(つくばグローバル・イノベーション推進機構)の設立をはじめ、市内の研究機関が有する最先端の研究設備等を他機関が共用できる仕組みや、各機関の研究成果等について情報共有できるシステムの構築など、イノベーションが生まれやすくなる環境づくりに力が注がれています。



### 国内外からの高度専門的人材の集積



【写真上】大学院生や若手研究者にとって、つくばは最先端の研究に触れたり、第一線の研究者から助言を得たりするチャンスに恵まれた理想的な環境

【写真右】物質・材料研究機構では職員数の20%以上が外国籍者。特に同機構の国際ナノアーキテクニクス拠点では、研究者の50%近くを外国籍者が占める。

筑波研究学園都市には、あらゆる自然科学分野の研究者が集まり、多様な研究開発が進められています。市内には15,000人を超える研究者が勤務しており、うち8,000人以上が博士号取得者です<sup>(※)</sup>。海外からの研究者も多数活躍しています。

(※)平成22年度筑波研究学園都市立地機関概要調査・外国人研究者等調査(筑波研究学園都市交流協議会)による



### つくばグローバル・イノベーション推進機構

つくばグローバル・イノベーション推進機構は、つくば地域における研究機関の集積を最大限に生かしつつ、「世界のイノベーションをリードするグローバル拠点都市」を実現するための新たな中核(ハブ)組織として機能することを目的として設立されました。研究・教育機関や民間企業、行政等が組織の壁を超えた共通の目標を設定し、研究機関の技術シーズと産業界のニーズのマッチングによる新事業創生、ベンチャー育成等により、経済や社会システムに大きなインパクトを与える成果をつくばから持続的に創出していくことを目指します。



◆つくばグローバル・イノベーション推進機構◆  
事務局お問合せ先

TEL. 029-853-5887  
URL: <http://tsukuba-gi.jp/>